

2025年草の根育成助成 助成事業紹介

写真2枚くらい貼ってください。



分野	⑦ 地域社会、コミュニティの健全な営みを目的とする事業
事業名	BUNKYO防災つながり隊 ～さいしょに うごける人(ファーストレスポnder)になろう！～ (略称: BUNKYO防災つながり隊 プロジェクト)
団体名	ご近所 de BOSAI
実施場所	主に 文京区立誠之小学校 体育館・家庭科室など
地域の課題	① 地域のつながりの希薄化 ② 都市型大地震発災リスクへの理解・備え不足 ③ 情報保障※の浸透不足（こころのバリアフリーへの理解不足）
事業紹介	市民防災講座の体系化に向けて、災害現場で支援経験のある医療従事者による大地震への対応を学ぶ場を提供している。スタンプカードを制作し、事前の備えと、大地震の初動期に必要な知識・技術・想像力の見える化を実施。小学3年生からシニアまでが、グループワークを入れて助け合いを学ぶ講座を実施し、年間3スタンプ以上の保持者には日本医科大学付属病院の高度救命救急センター長より表彰式で、賞状と記念の賞品を授けられる。
担当者コメント	講座では、単に防災について話を聞くだけではなく、医療者等から学びながら実際に体験することを重視しています。医療従事者も多数関わってくださり、市民と触れ合う機会にもなると喜ばれています。各企画には小学生も積極的に参加して、楽しみながら質問したり自分の意見を伝えたりしてくれました。特にクイズを考える場面や骨折の手当てでは主体的に取り組んでくれました。「もしも」の災害を具体的に想像したい人、大切な人のために役立ちたい人、地域の人と一緒に防災を体験したい人が、継続的に学び、地域の「防災つながり」をつくっていきっていると感じています。 YYシステムを取り入れた情報保障の普及により手話学習者やろう者難聴者の参加者は増えましたが、手話通訳の公的派遣ができない、高齢者は文字が見にくい、ネットワーク環境を整えるのが難しい等、対象者や会場によって調整も必要です。大学生を中心に、毎回工夫することを楽しみながら取り組んでいます。
団体紹介	2014年11月設立です。現在、会員は文京区以外にも仙台市、南相馬市にも会員がおり28名です。現在、大地震の初動で命を守ることをテーマに、科学者や医療者、地域住民がつながり「共に命を守る地域づくり」に取り組んでいます。外国人やろう者も参加し、それぞれの特性を生かした防災活動を展開。手話入りオリジナルソングや防災クイズ付きの遊びを通じて各地の祭りで発信しています。医療者と住民が交流する場も生まれ、子どもが心肺蘇生を誇らしく語る姿や、ろう者が主体的に情報を得ようとする変化が見られます。命を守る現場の医療者との出会いは、地域の誇りとなり、支え合う力を育んでいます。